

ごあいさつ

令和六年は、幕末から明治時代にかけて活躍した土佐の絵師、河田小龍（文政七（一八二四）年～明治三十一（一八九八）年）の生誕二〇〇年の節目の年です。これを記念して、公益財団法人高知県文化財団が管理運営する当館、県立坂本龍馬記念館、県立美術館は、連携企画として「河田小龍」展を開催します。

小龍は、数多くの作品を生み出し、激動の時代を記録した絵師であると同時に、アメリカから帰国した中浜万次郎の聞き取りを行い「漂異紀略」を記したことでも知られています。絵師として、知識人として、マルチに活躍した小龍に、美術、歴史、民俗の専門性をもつ3つのミュージアムが迫るこれまでにない企画展です。

当館では、土佐の人々の暮らしに密接にかかわりながら生み出され、今日まで守られてきた小龍作品を紹介します。

土佐を代表する絵師、河田小龍の画業と、その背景にいる土佐に生きた名もなき人々との関わりに思いをはせていただく機会になれば幸いです。

最後になりましたが、貴重な作品をご出品いただきました所蔵者ならびにご協力をいただきました関係者のみなさまに心より感謝申し上げます。

令和六年十一月

高知県立歴史民俗資料館

目次

凡例

謝辞

ごあいさつ

河田小龍

長宗我部信親と河田小龍

第一章 暮らしのなかで

第二章 祈りをこめて

3
4
5
21

凡例

・本冊子は、高知県立歴史民俗資料館において、令和六年十一月一日（金）から令和七年一月五日（日）まで開催する企画展「三館連携企画 生誕二〇〇年 河田小龍」の展示作品を紹介するものですが、一部展示していない作品も掲載されています。また、掲載順は、企画展の陳列順と一致するものではありません。

・作品データは、図版番号、作品名、作者、員数、年代、技法、法量（単位はcm）、所蔵者の順で掲載しました。

・表紙、3・4頁掲載図版、図版No 2～9・11～25は中島健蔵（中島写真事務所）が撮影、No 1はアクトミュージアム提供、No 10は高知県立美術館提供、No 24裏面図版は堀田幸生氏が撮影、No 26は四国工業写真株式会社が撮影、No 26参考図版は金刀比羅宮提供、No 27は竹村豊（タケムラススタジオ）が撮影しました。

・本冊子の構成、執筆、編集は、当館主任学芸員那須望が担当しました。

※掛軸などは、持ち主が表具を仕立て直すなどのメンテナンスをしてきたからこそ、今日まで伝えられてきました。時には襖絵を屏風に直したり、木戸を衝立にしたりなど、用途を変えても描かれている作品を大切に残してきました。本展は、絵師小龍の幅広い画業のみならず、これらの作品を伝え残してきた土佐の人々にも思いをはせていただきたく、作品図版に表具の一部をあえて写しこみ掲載しています。